

## シンポジウム

# ザ・シンポジウムみなと in 函館 マチナカにクルーズ船がやってくる

ザ・シンポジウムみなと実行委員会

函館港を核とした観光振興を考える 2016 年度「ザ・シンポジウムみなと in 函館」(北海道経済連合会などで作る実行委員会主催)が 1 月 21 日、函館市の函館アリーナで開かれ、市民ら 300 人が参加した。クルーズライターの上田寿美子氏が「クルーズの魅力とおもてなしへの市民参画」をテーマに基調講演。「函館港若松ふ頭を拠点としたクルーズ振興について」と題したパネル討論では、函館や道内外の関係者が新たなクルーズ観光の可能性について、自らの取り組みを披露しながら熱心に意見を交わした。

## 基調講演

### クルーズの魅力と おもてなしへの市民参画

上田寿美子 氏

#### 水産物あふれる函館 うってつけの寄港地

クルーズの旅とは、設備が整った客船で行く観光・娯楽を目的とした旅です。動く豪華ホテルに乗っているようなもので、体と荷物ごと次の港へと運んでくれて楽です。陸上の喧噪けんそうやしがらみから解放され、大海原に繰り出す爽快感があります。

今、たくさんの外国客船がやって来て、日本でも乗りやすくなりました。その一つが「コスタビクトリア」。昨年、1泊当たり1万円台からの手頃な料金設定で日本発着クルーズを行いました。大人2人と同室の13歳未満の子供は2人まで乗船料金が無料というのは画期的。値段に見合う価値の高い家族旅行ができると、日本に伝えました。

最近、特に小型のクルーズ船の総料理長は、港のそばに良い市場があると自ら出向いて食材を買い、船上のメニューに出す場合もあります。水産物の宝庫の函館はうってつけの寄港地だと思います。

大型客船の「ダイヤモンド・プリンセス」に乗り、函館港に伺ったことがあります。その時の乗客の顔ぶれは日本人と外国人が50%ずつ。岸壁のインフォメーションセンターは日本語と英語で対応しており、大変便利。外国の方も大勢利用していました。

多くの外国のお客さまが街を散策しました。函館朝市でカニを持って記念撮影をした方もおり、朝市の方も親切に対応していると思いました。私は船に戻り、部屋のベランダで登ったばかりの函館山を見ながら、絶景ランチを堪能しました。

他港で行うおもてなしを紹介します。富山県の伏木港でははしご乗りがあり、静岡県の清水港は、芸妓さんたちが船上の劇場で「ちゃつきり節」を披露し、外国のお客さまに大変好評でした。

神戸港は、消防音楽隊の盛大なブラスバンド演奏で迎えてくれることが多い。鳥取県の境港では、子供たちが岸壁で茶道のお手前を披露し、抹茶を振る舞いました。高松港では、高校書道部による書道パフォーマンスが行われました。

昨年、函館の遺愛女子高校に伺いました。英語科の生徒が数年前から通訳ボランティアを始め、外国のお客さまに茶道や書道を披露し、観光庁長官表彰を受賞したからです。校長先生は、「生徒にとっても英語を学ぶ意義を、身をもって感じる場になった」とお話ししてくださいました。

函館港のおもてなしは遺愛女子をはじめ、いか踊りを踊ったり、いか飯を振る舞ったりして、素晴らしいと思います。そのおもてなしが今後の客船誘致にもつながると思います。

長い歴史がある函館港の若松地区に、新たな港湾計画があるそうです。これを機に函館港がますます国際的な港として発展することをお祈りするとともに、船の旅は今後ますます身近になるので、ぜひクルーズにお出かけください。



**上田寿美子** (うえだすみこ)  
クルーズライター

300回以上の客船の乗船経験があり、新造客船取材のため、海外の造船所を多数訪問。世界の大手クルーズ会社経営陣との親交が深い。

## パネルディスカッション

### 函館港若松ふ頭を拠点としたクルーズ振興について

完成待たれる若松ふ頭 **笹島**

交流を通して観光発展 **折谷**

乗船客限定サービスも **井上**

出港時の行事も大切に **沖田**

歴史語れる通訳が必要 **高田**

港まつりなどとも連携 **工藤**

**沖田** クルーズ船で函館を訪れるお客さまに、どうやって楽しんでもらったらよいでしょう。さらに、もっと多くの船を呼ぶためにはどうするか。経済効果は？ また、市民の皆さんに向け、函館港から船旅を楽しむという視点でも考えていきたいと思います。

**笹島** まず、若松ふ頭の事業概要を説明します。函館朝市と JR 函館駅のそばにある昔の青函連絡船のふ頭を改良します。特急停車駅に全国で一番近いふ頭です。完成は公式には 2018 年前半ですが、1 日でも早く、まちなかのクルーズ船着岸を実現します。

**折谷** 初めて港町ふ頭にクルーズ船が寄港

した時、いか踊りを踊りました。最近は体験型の歓迎行事として、いか飯を振る舞っています。地元との交流を通し、観光が出来上がっていくと思うからです。

**高田** 函館の歓迎行事は、茶道や華道の体験、遺愛女子高校の吹奏楽演奏を含めて乗船客から好印象を得ていると聞いています。函館は海のまちなので、海鮮を振る舞うバーベキューをしてもよいですね。

**上田** 歓迎行事が市民の多大な負担にならないよう、クラブ活動の成果発表の場とするなど、目的意識を持って楽しんで取り組めるようにしてほしい。

**井上** 函館朝市では約150店で歓迎ののほりを掲げ、全体で歓迎しています。今後は乗船客限定の特典やサービスを検討します。私は最近、乗船客や外国人客から頻繁に写真を撮られます。海外の雑誌に載ったようで「井上さんは有名なんですよ」と言われました。仕事中でも喜んでもらえるなら「どうぞ」と撮影に応じます。それももてなしだと考えます。

**笹島** 宮崎県日南市では、高校生が乗船客の観光案内をしています。学生はその後、市長に観光の課題を提言するなど、人材育成や国際交流、地域政策へのかかわりにもつながる重要な取り組みです。

**沖田** 歓迎行事について。船会社による乗船客対象のアンケートでは、朝の入港後はすぐ観光に行きたいとの声があります。逆に出港前は「夕食にはまだ早い」と多くが参加します。「函館にまた行きたい」とアンケートで書かれると、船会社はコースづくりの参考にするので、出港時の歓迎行事も大切です。次に、函館で下船して楽しかったと思ってもらうためにはどうすればよいでしょうか。

**高田** 函館の夜景や江差町巡りなどツアーはいろいろとあります。北海道新幹線開業で移動時間が短縮されたので、南北海道と北東北をまたぐ広域の商品開発に力を入れたいです。一方、英語と中国語ができるバスガイドが函館に少なく、札幌や東京から毎回呼んでいます。通訳ができるだけでなく、歴史の知識があって面白く語ることができる人材の養成も重要です。

**工藤** 函館は狭い範囲に観光名所が多く集まっているので、まち歩き観光をPRします。通年でイベントがある「フェスティバルタウン」も形成したい。函館港まつりなどの大イベント

や函館野外劇など一般市民による催しとも連携して情報発信し、クルーズ船の入港時には常に何かが開かれるまにしたいですね。

**沖田** 経済効果の話をししましょう。1回の寄港で地域に何千万円とお金が落ちることもありますが、函館では何ができるでしょう。また、函館から乗船する人が増えるにはどうすればよいでしょうか。

**井上** 函館朝市では昨年、外国人向けに免税手続きや海外宅配を受け付ける総合カウンターを開設しました。海鮮丼が人気の一方、物販の主力はホタテの乾燥貝柱だけです。ほかにも売れる商品を発掘します。

**上田** クルーズ船の滞在時間は朝から夕方までと短く、乗船客が土産品を何軒も見比べるのは難しい。効率良く、どこに何があるのかを伝える仕組みも経済効果を生むでしょう。土産物店や飲食店が写真入りメニューや外国語表記を増やすことも、効果があります。

**折谷** クルーズ船を撮影に来る市民は多く、若松ふ頭に寄港すればもっと増えるはず。「いか飯の振る舞いを手伝いませんか」と気軽に声を掛け、港まで足を運びやすくしたいです。

**工藤** 市民対象の船内見学会などで親しんでもらい、クルーズ需要を喚起したい。若松ふ頭完成後は、現在の2倍となる年間70隻の寄港を実現できれば。

**沖田** 全国の港の中で、函館の歓迎やクルーズ船誘致の熱意はベスト3に入ります。函館は乗船客に「また来るよ」と言ってもらうことが可能な地だと思います。

本稿は平成29年2月20日北海道新聞 函館版に掲載された記事を同社の了解のもとに転載したものである。

## コーディネーター



### 沖田 一弘氏(おきたかずひろ)

日本海事新聞社編集局取材部長  
約20年のクルーズ業界取材を通じ、  
国内外のクルーズ船運航会社幹部に  
知人多数。港湾関係者と「全国クルー  
ズ客船誘致連絡会」を設立。

## パネリスト



### 工藤 壽樹氏(くどうしき)

函館市長  
函館市財務部長、企画部長、副市長  
などを経て2011年から市長。現在2  
期目。観光振興の一環でクルーズ客  
船の誘致に取り組む。



### 折谷久美子氏(おりたにくみこ)

NPO法人スプリングボード  
ユニティ21 理事長  
2003年、みなとまちづくり女性ネッ  
トワーク函館設立。みなとまちづく  
りマイスター。クルーズ船の乗客に  
「いか飯」の振る舞いを実施。



### 上田寿美子氏(うえだすみこ)

クルーズライター  
300回以上の客船の乗船経験があ  
り、新造客船取材のため、海外の造  
船所を多数訪問。世界の大手クルー  
ズ会社経営陣との親交が深い。



### 高田 悟氏(たかださとる)

㈱JTБ 北海道函館支店長  
JTБで、渉外団体旅行(一般・教育  
旅行)の営業・管理部門の手配管理  
を担当し、2014年から現職。地域交  
流ビジネスなどに取り組む。



### 井上 敏廣氏(いのうえとしひろ)

函館朝市協同組合連合会  
理事長  
1975年から函館朝市で恵比寿屋食  
堂を経営。2000年に恵比寿フーズ設  
立。函館朝市第一商業協同組合理事  
長。06年から現職。



### 笹島 隆彦氏(ささじまたかひこ)

北海道開発局港湾空港部長  
北海道開発局函館開発建設部次長、  
北海道局港政課長、独立行政法人土  
木研究所上席研究員などを経て  
2015年から現職。

※肩書きは開催時のもの

### ●主催

#### 『ザ・シンポジウムみなと』実行委員会

北海道経済連合会、(一社)北海道商工会議所連合会、北海道港湾協会、(一社)寒地港湾技  
術研究センター、(一財)港湾空港総合技術センター、北海道、国土交通省北海道開発局

### ●共催

函館港湾振興会

### ●協賛

(一財)北海道開発協会、(一社)北海道開発技術センター、北海道港湾振興団体連合会、北  
海道港湾空港建設協会、北海道ポートエンジニアリング協会、(一社)日本マリン事業協会、  
NPO法人 北海道みなとの文化振興機構

### ●後援

朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、北海道新聞社、NHK 函  
館放送局、HBC 北海道放送、STV 札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、TVh テレビ北  
海道、UHB 北海道文化放送